

牧師室から (2020. 5. 10)

米ニューヨーク市のブロンクス動物園で飼育されているトラが新型コロナウイルスに感染されているとのニュースがテレビに出たことがある。当時検査したのは1頭だけだが、このほか6頭にも症状があるという。テレビ画面に映されているトラの顔は、怖いというより、美しく、優しい印象まで与えてくれる。動物の苦しみは、言葉ができないから、もっと切なく感じられるところがある。突然訪れた息苦しさや痛みをこらえているトラたちの姿が想像される。

2011年3月11日に東北地方で、地震、津波があったときに、私たちは仙台から家がある50キロ離れた石巻に向かって車を急いでいた。高速道路は被害によって入ることが禁止され、一般道路を走っていた。その時に道路をひたすら走る柴犬がいた。たぶん、驚いて家を飛び出し、どこかに逃げようとしたのだろう。続く余震で行き場がなくなり、走るのにくたびれたその犬は帰り道もわからず、どうなったのだろうと時々思う。

福島原発によって、家で飼っていた犬や猫、牛などの動物を置いて避難するしかなかった人たちの痛む姿がテレビにも出たのを記憶している。

この世は人間だけ苦しむ世界ではない。

使徒パウロは言う。「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。(ローマ8・22, 23)」

私たち人間の罪によって、私たちだけではなく、全被造物が苦しんでいるのだ。主の救いの福音は私たちだけではなく、全被造物に向けられた希望である。

主の愛を伝えることは、私たち人間だけではなく被造物全体を生かす業である。その尊い使命が私たちに委ねられていることを覚え、身の引き締る思いがする。

(鈴木善姫牧師)